

学校伝染病

手足口病

乳幼児期のあいだで、主に夏にはやるウイルス性の感染症です。手、足、口にブツブツがでるので、この名前がついています。

小さい子がなると口の痛みがひどいときがあります。

しかし、大半の子はあまり大きな症状もなく、特に学校や園を休まなければいけない病気には指定されていません。

学校伝染病は、とくに学校で伝染を予防する必要があるものが指定され、ほかの子に伝染させるおそれなくなってから登校することになっています。

法定伝染病(コレラ、赤痢など)のほか、水痘、おたふくかぜ、麻疹、風疹などが決まっています。

手足口病は、ウイルスの排出が1か月ほど続き、発疹(ほっしん)のある時だけ登校停止にしても、感染の予防には意味がないこと、また、症状もわりと軽いことから、学校伝染病には指定されていません。

熱がなく、食事もきちんと食べれるようなら、休ませる必要はありません。



世界の
子どもに
ワクチンを

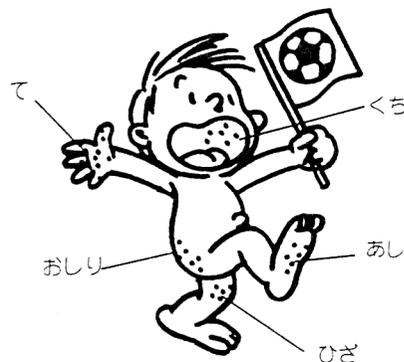
日本委員会

手足口病とは

その名のように、手のひら、足のうら、口の中に小さな水ぶくれができる病気です。おしりやひざにできることもあります。乳幼児の間で流行します。以前にかかったことのある子でもまたうつる場合があります。熱はないか、あっても微熱程度ですみます。手足の水ぶくれは痛みませんが、口の中が痛くて食べられなくなることがあります。

治療

治療をしなくても自然に治る場合がほとんどです。熱やのどの痛みがあるときはそのくすりを処方します。



保育所・学校

行ってよいかどうかは、症状次第です。主治医の指示に従いましょう。

こんなときはもう一度診察を

- ① 口の中が痛くて水分をあまり飲まないとき。
- ② 高い熱が3日以上続くとき。
- ③ 吐いてぐったりしているとき。

☆原因のウイルス

手足口病をおこすウイルスは、数多く知られています。代表がコクサッキーA16、エンテロ71というウイルスです。免疫はできるのですが、他のウイルスによる手足口病がはやると、またかかってしまいます。

♠髄膜炎に注意

手足口病は合併症として、髄膜炎（ずいまくえん、脳膜炎と同じ）をおこすことがあります。ウイルスが頭の中に入り込んで、大暴れる状態で、高熱の他、強い頭痛や嘔吐（おうと）をおこします。入院治療が必要です。

家庭で気をつけること

- ① 食べ物 : 口の中が痛いときは、しみないものを与えましょう。
熱いもの、塩味や酸味の強いもの、かたいものは控えます。
- ② 入浴 : 熱がなく元気ならかまいません。